

川 根 本 町 図 書 室 だ よ り

2026年9月号

9月

- ・文化会館図書室(小長井)
 - ・山村開発センター図書室(上長尾)
 - ・移動図書館車やまびこ号: 川根本町内6コース
- TEL: 0547-59-3106(文化会館)
TEL: 0547-56-2231(山村開発センター)

- ☆ 開室時間: 午前9時～午後5時
- ☆ 休室日: 月曜日・第3日曜日(20日)
- ☆ 祝日の翌日(22日～24日)
- ☆ やまびこ号巡回6コース



かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。

新着 図書



「川根本町インターネット図書室」では
新刊の詳しい情報や 蔵書の検索が可能です。



川根本町
インターネット
図書室
ホームページ

おそろしい
「スマホ依存」に
なる前に



文

和田秀樹 著
自由国民社

熱中症は
血管の病気だ!



文

加藤和則 著
プレジデント社

なぜ、周りの気持ちが
わかりすぎる人ほど
生きづらいの?



山

中野信子 著
講談社

生活の中で、
子どもが自分から
学び出す。



山

岩田かおり 著
ディスカヴァー
トゥエンティワン



文

じゅえき太郎 作
ガクケン



文

出口かずみ 作
ほるぷ出版



山

鎌田歩 作
福音館書店



山

海野あした 作
ニコモ

◎ 新着図書



「川根本町インターネット図書室」では新刊の詳しい情報や蔵書の検索が可能です。

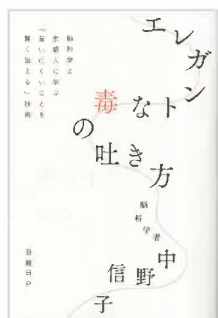
文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
●『夜の恩寵』 三浦しをん 著 集英社 故郷の父親からの電話で三年ぶりに帰った俺を待っていたのは、相変わらず若々しい継母の姿だったが――(「神馬に乗る女」)。他、夢見の力(予知夢)がある祖母をもつ未千が、二十一歳の誕生日に高熱に浮かされて以降、それまで見ることのなかった夢を見るようになる「胡蝶」など、全五篇が奏でる、夢をめぐる妖しくも美しい不思議な物語。	●『二月に憂鬱な君へ』西條奈加 著 東京創元社 祖母のお薦さんと神楽坂でふたり暮らしをする望のまわりは、今日も少しだけ騒がしい。不思議な宛名が書かれた便箋に添えられた暗号のような図とメッセージ、浮気で巷を騒がせている有名人の来訪……。商店街のみんなに頼られるお薦さんのもとへ集まる相談事に一緒に向き合う望は、少しずつ成長していく。大人気シリーズ第5弾！
●『愛する男』 乾ルカ 著 祥伝社 生まれてすぐに母を喪った。立て続けに祖父母を亡くし、父も死んだ。養護施設で育ったその少年・中川宙希は、聡明な友人や心優しい大人たちに囲まれ、愛情を注がれ、大きくなる。だがひとたび宙希が好意を抱くと、彼らは死んでしまうのだった。やがて愛することを恐れるようになる宙希。それでも数々の出会いが宙希に訪れて…。	●『夏帆』 村上春樹 著 新潮社 「正直いって、君みたいな醜い相手は初めてだよ」26歳の絵本作家、夏帆は初対面の男にいきなりこう告げられた。とびきり美しくも賢くもなく、ただ少しばかり好奇心の強い彼女は、怒りよりもショックよりも、ただ純粋に驚いた。しかしそれから彼女の周りでは、実にさまざまな奇妙な出来事が起こりはじめる。
●『風車と巨人』 岩井圭也 著 集英社 「不老因子」の発見で脚光を浴びるがん研究者・嘉山宗弘。彼を追う人気ドキュメンタリー番組『十一時の肖像』の撮影を始めた三田紗矢子は、やがて嘉山の成果の根幹を揺るがす研究不正疑惑に辿り着き…。	●『天保釣り合戦顛末記』 土橋章宏 著 小学館 ある日、こっそり城を抜け出し、磯釣りに興じていた庄内藩藩主・酒井忠器の元に驚愕の知らせが届く。それは幕府から出された、あまりにも理不尽な所替の沙汰だった。実はこの命令の裏には老中・水野忠邦の企みがあり……。突然訪れた藩の危機に忠器の決断は――「明日より、藩をあげての釣り勝負を行う！」
●『何も起きない夜日記 平凡な夜の、切実な話』 月と文社 編 心が躍るような特別な出来事も、大きなトラブルもなく過ぎた平日の夜、何を思い、どのように過ごしていますか？ 介護ヘルパー、カフェ店主、会社員、農業従事者、経営者など、さまざまな人生を送る17人が「平常運転の1日の夜」に思うことを、日記をまじえて綴るエッセイ・アンソロジー。	●『飛燕』 あさのあつこ 著 朝日新聞出版 小舞藩で代々納戸頭を務めてきた高蔵家。長女の徳子は、市中道場の師範代である藤十郎を婿に迎え幸せな生活を送っていた。しかしある日、夫が遊女と相對死したとの報がもたらされ…。

おすすめ図書

『エレガントな毒の吐き方』

中野信子 著 日経BP

京都独自の遠回しな表現に学ぶ



山村開発センター所蔵

「嫌だけど断れない」「本当は言いたいことがあるのに我慢してしまう」そんな経験はありませんか？

本書は、脳科学者の中野信子さんが、京都独自の遠回しな表現『イケズ』をヒントに、「NOを言わずにNOを伝える方法」を紹介した大人のコミュニケーション術です。相手への配慮を残しながら自分の意思を伝える。誰かを言い負かすためではなく、自分も相手も大切にする伝え方を教えてください。

現代では、「本音言うこと」「相手を論破すること」が良いことのように語られますが、本書では「すべてを正直に言うことだけが正解ではない」と提案しています。脳科学者ならではの視点から、人はなぜ言葉に傷つき、なぜ遠回しな表現が人間関係を円滑にすることがあるのかも、わかりやすく解説されています。

人間関係に少し疲れたとき、あるいは、「もう少し上手に気持ちを伝えられたら」と感じている方に、ぜひ手に取っていただきたい一冊です。

図書館スタッフT